

『COREO-Net. (コレオネット)』 Collaborative Regional OITA High-school Network (大分県 COREハイスクール・ネットワーク)

目的

中山間地域の高校において、生徒の多様な進路実現に向けた教育・支援を可能にするため、習熟度に応じたきめ細かい学習等に係る遠隔授業を実践するとともに、地域との協働によるコンソーシアムを構築し、地域資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化や、地域を深く理解しコミュニティを支える人材育成に資する取組を行う

現状

- 本県では、H17年度からの高校再編で、中山間地域を中心に複数学科を一枚に統合した総合選択制高校を設置するなど、生徒の学ぶ環境を整備してきた。
- さらなる少子化により、結果的に地域の小規模校には、地域全域から幅広い学力層の生徒が入学し、同じ教室内、かつ同じペースで学習に取り組む状況にある。
- 地域の高校では、大自然や伝統文化などの恵まれた地域資源を強みとして、H28年度から高校の魅力化を進めているところであり、総合的な探究の時間等において、地元根ざした特色ある教育活動を実践している。
- 小規模校ならではの生徒に寄り添う丁寧な学習指導等により、在校生の満足度は高い一方で、より高度な知識や広範な学習を含んだ、個々に応じた最適なレベルの授業を望む声も生徒から聞かれるなど、限られた教員数で対応することの難しさもある。
- 中山間地域の学校の維持・活性化は、地域の活力創出にもつながることから、これまで以上に、地元の中学生在が行きたい、学びたいと思う魅力ある学校づくりを進め、入学者を確保する必要がある。

- 入学者の増加、地域を担う人材の育成、結果として地域の活力創出という好循環を生み出すためにも、中学生が地元の高校に進学しても、安心して個々の進路実現に向かって邁進できるような学校の体制づくりが必要である。

1. 遠隔授業に関する取組の概要

中山間地域の高校5校を受信校とし、都市部の高校3校と県内唯一の環境土木科を有する1校を配信校とする3つのネットワークタイプを準備し、関係校での連携システムを構築

グループ	配信校	受信校
習熟度別授業 配信型	中津南	耶馬溪校 久住高原農業
専門科目 特化型	大分南	耶馬溪校（生活福祉コース）
	国東	三重総合
産業連携 事業配信型	情報科学	耶馬溪校（情報会計コース） 国東（ビジネスITコース）

主なアウトプット(活動目標)

活動目標 1

【COREネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数】

令和2年：0、令和3年：0、令和4年：8、令和5年：9

活動目標 2

【地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数】

令和2年：0、令和3年：4、令和4年：4、令和5年：5

活動目標 3

【遠隔授業の取組についてメディア等を通じて情報発信した回数】

令和2年：0、令和3年：0、令和4年：0、令和5年：16

活動目標 4

【県主催の高校魅力化に係る研修会への地域からの参加者数】

令和2年：0、令和3年：0、令和4年：20、令和5年：48

課題と今後の取組

【課題】

- 配信担当者によるICT機器（大型モニターと一人一台タブレット）の有効に活用した遠隔教育のノウハウを蓄積することができた。今後は、このノウハウの共有化を図り、さらに効果的な教育活動につなげていくことが課題である。
- 遠隔教育を拡大するために、教育課程・時程の調整などが課題である。

【今後の取組】

- 遠隔教育の拡大に向け、学校間連携方式での遠隔授業の継続するとともに、遠隔配信センター（仮称）開設の準備を進める。
- コンソーシアムを活用した各高校の魅力向上について、学校間連携により深化を図る。

2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

生徒が、学校が所在する「我がまち」のことを、“自分ごと”と捉える機会として、連携校間での情報交換・意見交換の場を設定し、他校の生徒との交流により、改めて地元地域への理解や、持続可能な地域との協働を促進

- 本構想の連携校のうち、受信校5校については、県予算事業を活用したコンソーシアムの構築
- コンソーシアムを構成する諸機関が、地域人材の育成という観点からも、育成したい生徒の資質・能力の視点を学校と共有した上で、協働して地域の生徒を育てる仕組みを作る。
- 地域資源や地域人材に関する内容を、探究的な学びの教材として活用するとともに、連携校間で、高校生が取り組む地域活性化の実践について意見交換する。

主なアウトカム(成果目標)

成果目標 1

【学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況】

・受信校4校：進路マップ「基礎力診断テスト」（年2回受験）

令和2年：受信校平均値（ゾーン）D2

令和3年：C3以上30.1%、令和4年：C3以上70%

令和5年：B層以上4名

成果目標 2

【地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数】

・総合的な探究の時間を基本として学校設定科目での対応も研究

令和2年：5、令和3年：5、令和4年：9

令和5年：11